



一般質問

認知症支援の取り組みについて



まつむら ひろし
松村 広志
議員

質問 近年、介護における痛ましい事件・事故が後を絶たない。平成27年11月には、介護疲れの娘が、認知症の母親と病気の父親を車に乗せたまま、利根川に一家心中を計る悲しい事件が起きた。今後約十年で認知症患者数は700万人に達すると見られ、実に高齢者の5人に1人になると推計される。来たるべき事態に備え対策が急がれる。認知症サポーターの更なる養成や、教育現場等での認知症理解の推進強化は必要である。また、介護者への更なる支援として、『認知症力フェ



設置の検討はどうか。これは、介護に関わる方々の憩いの場として、情報交流の場所として心強い支えになると思う。

答弁 (保健福祉部長) 厚生労働省を中心に策定された『新オレシジプラン(認知症施策推進総合戦略)』を踏まえて様々な対応を強化して参りたい。『認知症力フェ』については、今後、本村で進めている『地域交流館(仮称)』建設事業に伴い、気兼ねない居場所スペースとして利用ができないか検証を重ねていきたい。

『新オレシジプラン』には、自治体において初期認知症支援チームの設置が推進されている。専門医や介護福祉士・保健師その他で編成され、早期診断から適切な治療や介護につなげる。その効果は大きいと思われるが。

質問 『新オレシジプラン』には、自治体において初期認知症支援チームの設置が推進されている。専門医や介護福祉士・保健師その他で編成され、早期診断から適切な治療や介護につなげる。その効果は大きいと思われるが。

答弁 (保健福祉部長) 当該チームの編成は、早期診断・早期対応に有効と思われる。しかし、小さな自治体では人材確保等に難しさがある。広域的な組織としての検討も考慮に入れ、進めていきたい。

質問 認知症は海外では、家族のみならず社会の『誰もが関わること』と認識されているようである。介護教室等を通じて、地域に広く普及・啓発することは重要と思われる。心こそ大切である。認知症高齢者等にやさしい地域は、決して認知症の人だけにやさしい地域ではない。困っている

人がいれば、その尊厳を尊重しつつ手助けをするというコミュニティのつながりこそが大切であり、地域づくりの試金石といえる。これは、当該プランの理念でもある。

答弁 (保健福祉部長) 介護教室等については、ご家族を初め、地域の方等も含め、広く交流の場としていきたい。認知症の方のみならず、誰もが自分らしく暮らし続けていける社会を目指し取り組んでまいりたい。

